



2020年5月8日

各 位

会社名 平田機工株式会社
代表者名 代表取締役社長 平田 雄一郎
(コード番号: 6258)

問合せ先 常務執行役員 藤本 靖博
管理本部長
(電話 096-272-5558)
(URL <https://www.hirata.co.jp>)

インドネシア農業研究開発庁（IAARD）との植物遺伝資源の探索・利用 に関する共同研究開発の開始に関するお知らせ

当社は、今般、インドネシア農業研究開発庁（IAARD）との間に、植物遺伝資源の探索・利用に関する共同研究開発を開始するにあたって契約を締結いたしましたのでお知らせいたします。

記

「秘められた植物遺伝資源の謎に挑む」

インドネシア農業研究開発庁（IAARD）との植物遺伝資源の探索・利用に関する共同研究開発を開始

平田機工（研究開発本部）は、インドネシア農業研究開発庁（Indonesian Agency for Agricultural Research and Development：IAARD）と、機能性食品、化粧品、トイレタリーおよび医薬品開発のため、インドネシア共和国の植物遺伝資源およびそれらに付随する伝統的かつ伝承的知識の持続的な利用のための契約を締結いたしました。

インドネシア共和国は東南アジアの南部に位置し、約13,400の大小の島々によって構成されています。赤道に跨る熱帯気候地域（乾季と雨季）にあり、メガダイバシティ（豊かな生物資源）の一つに数えられます。また、インドネシアは、多様な文化や歴史に基づいた植物遺伝資源に関連する伝統的かつ伝承的な知識を豊富に有しています。

本契約に基づいて、平田機工（研究開発本部）は、インドネシア共和国の農業省傘下の研究機関との共同探索事業を実施し、インドネシア国固有の植物および関連した伝承的かつ伝統的な知識を利用して、効率的に生理活性物質を探索し、新しい機能性食品素材、化粧品素材、トイレタリー素材、および医薬品などの開発を目指します。

両者は、協力してヘルスケア製品と医薬品の開発を効率的に促進し、特にライフサイエンス関連製品のグローバルマーケットへ向けて商品化を目指すことで合意に至りました。

2020年4月24日、平田機工と、インドネシア共和国農業省の国立研究機関であるIAARDは了解覚書（Memorandum of Understanding: MOU）を締結しました。本契約では、インドネシアの植物遺伝資源に加えて、伝統的な知識へのアクセスが含まれていることから、インドネシアの知識を利用した効率的な探索が可能になります。本事業では、インドネシアの植物遺伝資源およびIAARDの研究所や研究所が開発した技術を利用する一方、平田機工は、化合物分析のための設備を提供し、世界市場で受け入れられる先進的かつ革新的な製品を開発します。

なお、本契約は、インドネシア（共和国）の国内制度、ポリシー、また遺伝資源の持続的利用、保全、公正で衡平な利益配分を目的とした国際制度である生物多様性条約（CBD、1993年）、および名古屋議定書基（2010年）に従い、インドネシア（共和国）への技術指導などの非金銭的利益配分、ならびに得られた成果からのローヤルティ配分などの金銭的利益配分を含みます。

※IAARDより

IAARDは農業に関するさまざまな研究開発に従事しており、このMOUにより、インドネシアの農業技術が世界的に普及することを期待しています。

共同事業のパートナーとしての平田機工は、インドネシアの固有な遺伝資源を持続的に原料として利用し、機能性食品、化粧品、トイレタリー、および医薬品開発を商業化します。

本事業を担当する研究機関は、ILETRI（インドネシアの豆類および塊茎の研究機関）、ISFCRI（インドネシアの甘味料および繊維作物の研究機関）、インドネシアの柑橘類および亜熱帯果物の研究機関（ICSFRI）で、マラン、東ジャワ、インドネシアの装飾作物研究機関です。（IOCRI）、インドネシアの薬用作物研究所（IMCRI）、インドネシアの西ジャワ州ボゴールにある農業ポストハーベスト研究開発センター（ICAPRD）。6つの研究機関は、平田機工からの財政的支援を得て、3年間の予備的な研究支援を行う予定です。

インドネシアは平田機工に感謝し、この相互協力を他の関連農業研究に拡大します。

※業績に与える影響

本契約内容により進められる研究は長期的な展望に基づくものであり、当期の連結業績に与える影響は軽微であります。

なお、今後開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせいたします。

※問合せ先

平田機工株式会社 研究開発本部 常務執行役員 CTO 研究開発本部長

平賀 靖英

電話：096-272-0555（代表番号）

以上